

生活交通確保維持改善事業の事業評価について

- この事業評価は、昨年策定した令和3年度秋田県生活交通確保維持改善計画（運行情間：R2.10.1～R3.9.30）に基づき、補助対象となる乗合バスの各系統ごとの生産性向上の取組実績、利用促進策の実施状況などを検証し、事業が効果的に行われたかどうかを判定するものです。補助要綱に各協議会が国が示したガイダンスに則ってこの事業評価を実施し、地方運輸局に報告することが定められています。

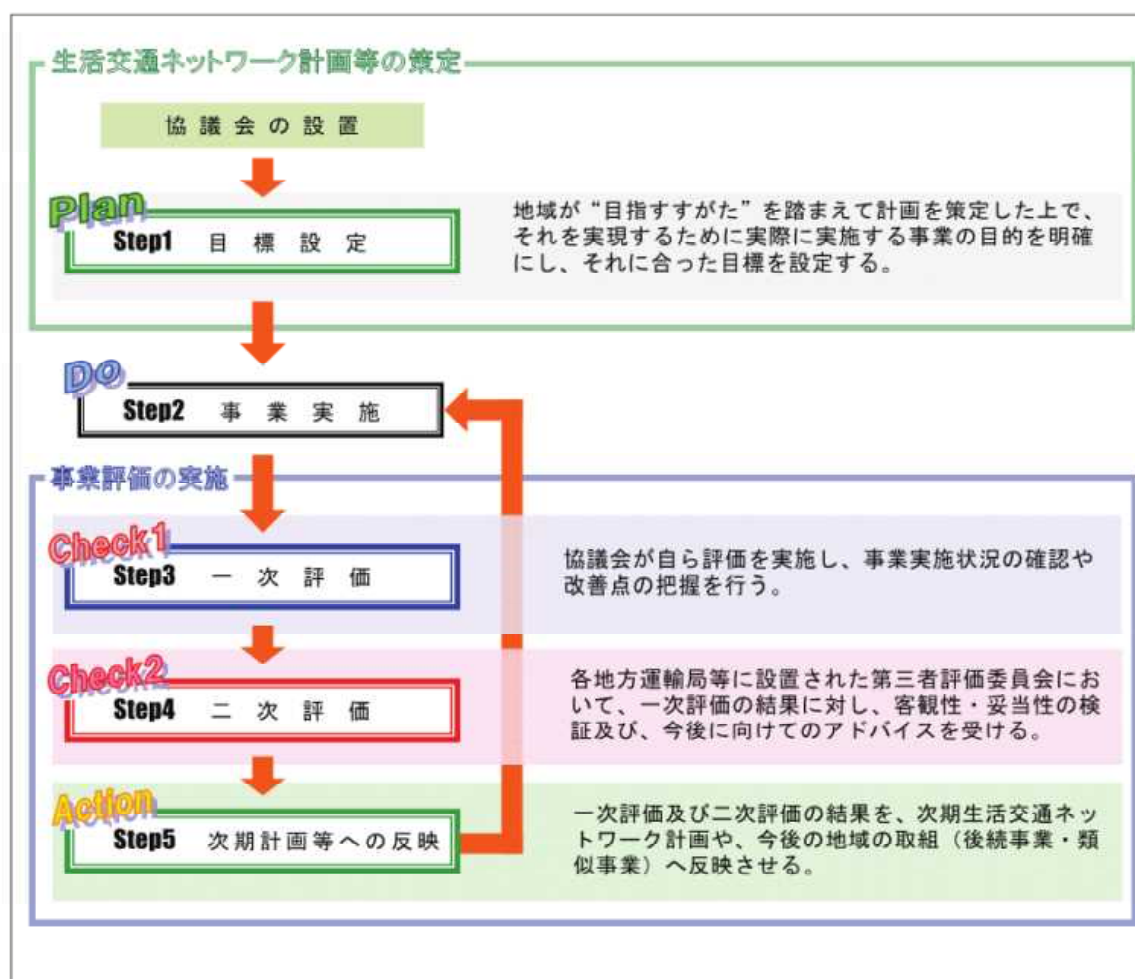
※参考 地域公共交通確保維持改善事業費補助金交付要綱（抜粋）

（協議会）

第3条第5項

協議会は、補助対象事業ごとに補助対象事業について評価を行い、その結果について地方運輸局又は地方航空局の長に報告しなければならない。

事業評価の流れ



※国土交通省作成「事業評価を通じた地域公共交通確保維持改善事業の効果的実施に向けて ガイダンス」より抜粋

生活交通確保維持改善計画

目的・必要性

本県の地域公共交通を取り巻く環境は自家用車の普及と人口減少により、利用者の減少が続いている。一方で、高齢者をはじめとする交通弱者の生活の足の確保が求められており、地域の実情に即した効率的な路線の再編を進めているが、生活圏の広域的に対応する幹線の路線については、国、地方公共団体、事業者、地域住民が一体となってこれを支え、引き続き維持・確保する必要がある。

定量的な目標・効果

【目標】
輸送人員の確保(前年度実績98%以上)

【効果】
地域公共交通の利用促進につながる取組や利便性の向上に努め、輸送人員を確保する。これによりバス事業者の運送収入が確保されるとともに、運行経路やダイヤの見直しなどにより経常収支率が改善することで、地域住民の生活の足を維持・確保につながる。

事業・実施主体

- ① 割引き乗車券の利用拡大(事業者、沿線自治体)
- ② ICT技術の導入等によるサービス向上(事業者、協議会)
- ③ モビリティマネジメント等の推進(事業者、沿線自治体)
- ④ 観光需要の取り込み(事業者、沿線自治体)
- ⑤ 貨物事業者との協働による貨客混載の実施(事業者)
- ⑥ 運行ダイヤの見直しや路線再編の検討(事業者、沿線自治体)

確保・維持する系統の概要

羽後交通(株)による本荘象潟3線ほか5系統
秋田中央交通(株)による五城目線ほか2系統
秋北バス(株)による大野線ほか8系統
秋田中央トランスポート(株)による大湯線ほか1系統

基礎データ

人口：937千人(令和3年10月1日現在)
面積：11,637.52km²
高齢化率：38.5%(令和3年7月)
協議会開催数：地域協議会4回(対面1・書面2・リモート1)、ブロック協議会3回(リモート)

評価項目

前回の評価結果の反映状況

ICT技術の導入等によるサービス向上等による利用促進について計画に盛り込んだ。
また、輸送人員の減少が続く系統においては、沿線市町村や交通事業者等の関係者が運行経路の変更や路線再編等について検討を行う。

実施状況、目標・効果の達成状況

【実施状況等】
沿線市町村と連携した各種各種割引制度の実施、スマホ定期券の利用エリア拡大、小学校等でのバス乗り方教室などにより利用促進を図るとともに、観光需要の取り込みや貨客混載の実施により生産性向上にも取り組んだ。
【実績】
上記の取り組みを行ったが、新型コロナウイルス感染症の影響により公共交通の利用者はR1年度(基準年度)から著しく減少しており、ほとんどの系統で目標を達成することが出来なかった。

事業の今後の改善点

新型コロナウイルス感染症の影響長期化や人口減少の進行により利用者、運送収入共に減少しており、地域間幹線系統を維持することが一層難しくなっている。このため、まずは事業者による感染症防止対策の徹底により公共交通を安全安心に利用できる環境を整えるとともに、運転免許返納者など新たな利用者を掘り起こしや、デジタルサイネージやバスロケーションシステム、キャッシュレス決済等デジタル化推進による利便性の向上に取り組み、路線の確保維持につなげる。
また、輸送人員の減少に歯止めがかからない路線については、利用者や沿線市町村、交通事業者等の関係者を交え、路線再編等の検討を行う。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和3年12月21日

協議会名: 秋田県生活交通対策地域協議会

評価対象事業名: 地域間幹線系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
秋北バス株式会社	大野線 イオン大館店～中谷地	沿線小学校でのバスの乗り方 教室開催や高齢者や運転免許 返納者向けの割安な定期券の PR強化により、利用促進を 図った。	A 事業計画に位置づけられた とおり、適切に実施された。	C 新型コロナウイルス感染拡大 による影響により輸送人 員が大きく減少し、目標に及 ばなかった。 また2年連続で輸送量15.0 人／日を満たすことが出来 なかった。	路線再編の原案を作成し、沿線 市と協議を行う。
同上	大館・鷹巣線 大館駅前～鷹ノ巣駅前	沿線小学校でのバスの乗り方 教室開催や高齢者、運転免許 返納者向けの割安な定期券の PR強化により、利用促進を 図った。	A 事業計画に位置づけられた とおり、適切に実施された。	B 新型コロナウイルス感染拡大 による影響により輸送人 員が減少し、目標に及ばな かったが、収支率は改善し た。	路線再編の原案を作成し、沿線 市と協議を行う。
同上	大館・小坂線 鳳鳴高校前～小坂操車場	小中学生向けの特別運賃や高 齢者、運転免許返納者向けの 割安な定期券の利用拡大PRを 強化し、利用促進を図った。	A 事業計画に位置づけられた とおり、適切に実施された。	B 新型コロナウイルス感染拡大 による影響により輸送人 員が減少し、目標に及ばな かった。	利用促進に向けた取り組みを 強化するとともに、沿線の高校 がR6年春に統合するため路線 見直しの準備を進める。
同上	大谷(2)線 大館駅前～大谷	沿線小学校でのバスの乗り方 教室開催や高齢者、運転免許 返納者向けの割安な定期券の PR強化により、利用促進を 図った。	A 事業計画に位置づけられた とおり、適切に実施された。	C 新型コロナウイルス感染拡大 による影響により輸送人 員が大きく減少し、目標に及 ばなかった。 また2年連続で輸送量15.0 人／日を満たすことが出来 なかった。	路線再編の原案を作成し、沿線 市と協議を行う。
同上	中野線 大館駅前～中野	・沿線小学校でのバスの乗り方教 室開催や高齢者、運転免許返納者 向けの割安な定期券のPR強化に より、利用促進を図った。 ・運行経路が途中まで重複してい た「羽立(3)」線を減便し、集約を 図った。	A 事業計画に位置づけられた とおり、適切に実施された。	C 新型コロナウイルス感染拡大 による影響により輸送人 員が大きく減少し、目標に及 ばなかった。 また2年連続で輸送量15.0 人／日を満たすことが出来 なかった。	路線再編の原案を作成し、沿線 市と協議を行う。
同上	能代・八竜線 能代ステーション～八竜ふれあ いセンター	新規系統(2年目)	A 事業計画に位置づけられた とおり、適切に実施された。	B 路線新設以来2年連続で輸 送量15.0人／日を満たして いる。	・自家用有償運送との乗り継ぎ 利用を促進するなど、幹線系統 の維持に向けて沿線市町と協 議を進める。

協議会名： 秋田県生活交通対策地域協議会

評価対象事業名： 地域間幹線系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
秋北バス株式会社	真名子・能代線 真名子～組合病院前	小中学生向けの特別運賃や高齢者、運転免許返納者向けの割安な定期券の利用拡大PRを強化し、利用促進を図った。 貨物事業者と貨客混載の実証実験実施に向けた検討を行う。	A 事業計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	C 新型コロナウイルス感染拡大による影響により輸送人員が大きく減少し、目標に及ばなかった。 また2年連続で輸送量15.0人／日を満たすことが出来なかった。	路線再編の原案を作成し、沿線市町と協議を行う。
同上	小坂(2)線 花輪駅前～小坂操車場	小中学生向けの特別運賃や運転免許返納者向けの割安な定期券の利用拡大PRを強化し、利用促進を図った。	A 事業計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B 新型コロナウイルス感染拡大による影響により輸送人員が減少し、目標に及ばなかった。	利用促進に向けた取り組みを強化するとともに、沿線の高校がR6年春に統合するため路線見直しの準備を進める。
同上	花輪・大館線 花輪営業所～大館駅前	小中学生向けの特別運賃や高齢者、運転免許返納者向けの割安な定期券の利用拡大PRを強化し、利用促進を図った。	A 事業計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B 新型コロナウイルス感染拡大による影響により輸送人員が減少し、目標に及ばなかった。	利用促進に向けた取り組みを強化するとともに、沿線の高校がR6年春に統合するため路線見直しの準備を進める。
秋田中央交通株式会社	五城目線 秋田駅西口～五城目バスターミナル	沿線市町と協議し、路線再編と利用促進に努めた。	A 事業計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B 新型コロナウイルス感染拡大による影響により輸送人員が減少し、目標に及ばなかった。	・五城目町内の大型商業施設を通るルートに変更し、利便性が向上したことについてPRに努め、買い物客等の新たな利用者の獲得につなげる。
同上	追分線 秋田駅西口～天王グリーンランド	潟上市内バス割引券の利用方法を改善した。	A 事業計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A 新型コロナウイルス感染拡大による影響により輸送人員がやや減少したものの、目標を達成した。	利便性の向上についてPRに努め、買い物客等の新たな利用者の獲得を図る。
同上	太平線 大川反車庫～岩見三内	新興住宅街に近いバイパスへ一部経路変更を実施し利用促進を図った。	A 事業計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	C 新型コロナウイルス感染拡大による影響により輸送人員が減少し、目標に及ばなかった。	現状の運行本数を維持するとともに、利便性の向上についてPRに努め、買い物客等の新たな利用者の獲得を図る。

協議会名： 秋田県生活交通対策地域協議会

評価対象事業名： 地域間幹線系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
秋田中央トランスポート株式会社	大潟線 八郎潟駅前～サンルーラル大潟	新規系統(2年目)	A	事業計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B 路線新設以来2年連続で輸送量15.0人／日を満たしている。	南秋地域公共交通活性化協議会と協力して生産性向上に取り組む。
同上	八郎潟線 八郎潟駅前～五城目BT	新規系統(2年目)	A	事業計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B 路線新設以来2年連続で輸送量15.0人／日を満たしている。	南秋地域公共交通活性化協議会と協力して生産性向上に取り組む。
羽後交通株式会社	本荘象潟3線 本荘営業所～象潟駅前	他系統からの振り替えにより運行回数を増やすなど収支改善を図った。	A	事業計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	C 新型コロナウイルス感染拡大による影響により輸送人員が大きく減少し、目標に及ばなかった。 また輸送量15.0人／日を満たすことが出来なかった。	バスパックやスマホ定期券のPRを継続するとともに、貨客混載にも継続して取り組み、収益の増加を図る。
同上	横手大曲線 横手バスターミナル～大曲バスターミナル	スマホ定期券の販売区間の拡大を図った。	A	事業計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B 新型コロナウイルス感染拡大による影響により輸送人員が大きく減少し、目標に及ばなかった。	バスパックやスマホ定期券のPRを継続し、収益の増加を図る。
同上	本荘象潟4線 本荘営業所～象潟駅前	他系統からの振り替えにより運行回数を増やすなど収支改善を図った。	A	事業計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	C 新型コロナウイルス感染拡大による影響により輸送人員が減少し、目標に及ばなかった。 また輸送量15.0人／日を満たすことが出来なかった。	バスパックやスマホ定期券のPRを継続し、収益の増加を図る。
同上	湯沢横手2線 湯沢営業所～平鹿総合病院前	沿線上における大きな状況変化がないことから現状を維持するため、ダイヤ・運行回数を維持した。	A	事業計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	C 新型コロナウイルス感染拡大による影響により輸送人員が減少し、目標に及ばなかった。 また輸送量15.0人／日を満たすことが出来なかった。	路線の再編について沿線市町村と協議を始める。
同上	本荘秋田2線 本荘営業所～県立体育館前	土日祝日ダイヤの見直しなどを行い収支改善を図った。	A	事業計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	C 新型コロナウイルス感染拡大による影響により輸送人員が減少し、目標に及ばなかった。 また輸送量15.0人／日を満たすことが出来なかった。	バスパックやスマホ定期券のPRを継続し、収益の増加を図る。
同上	横手大曲2線 平鹿総合病院前～大曲バスターミナル	スマホ定期券の販売区間の拡大を図った。	A	事業計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	C 新型コロナウイルス感染拡大による影響により輸送人員が大きく減少し、目標に及ばなかった。 また輸送量15.0人／日を満たすことが出来なかった。	バスパックやスマホ定期券のPRを継続し、収益の増加を図る。

生産性を向上させる取組

事業者	系統	取組				基準値	目標		実績	
		項目	実施内容	実施主体	実施目標	輸送人員(R1)	係数	輸送人員(R3)	輸送人員(R3)	達成率
〇〇	(記載例)	・割引き運賃等の利用促進	・運転免許返納者向け定期のPRチラシを市内全戸配布	事業者、沿線市	輸送人員の維持	10000 人	98%	9,800 人	9,800 人	100 %
秋北バス	大野	・割引き運賃等の利用促進 ・運行ダイヤの見直しや路線再編の検討	・沿線市教育委員会等に対して小学生、中学生長期休み特別運賃のPR協力を依頼 ・運行経路の一部変更(H29.12～)による、通学利用の促進 ・大館市地域公共交通網形成計画策定に合わせた路線再編の検討	事業者、沿線市	輸送人員の維持	67,003 人	98%	65,663 人	50,106 人	76 %
	大館・鷹巣	・割引き乗車券の利用拡大 ・モビリティマネジメント等の推進	・沿線市教育委員会等への小学生、中学生長期休み特別運賃のPR協力依頼 ・沿線幼稚園、小学校等でバスの乗り方教室を開催	事業者、沿線市	輸送人員の維持	107,515 人	98%	105,365 人	95,758 人	91 %
	大館・小坂	・観光需要の取り込み ・運行ダイヤの見直しや路線再編の検討	・地域公共交通会議において運行経路の変更を協議 ・観光施設に隣接した経路への路線変更と企画乗車券の販売開始(H29.10)	事業者、沿線市	輸送人員の維持	92,524 人	98%	90,674 人	67,710 人	75 %
	大谷(2)	・割引き乗車券の利用拡大 ・運行ダイヤの見直しや路線再編の検討	・沿線市教育委員会等に対して小学生、中学生長期休み特別運賃のPR協力を依頼 ・大館市地域公共交通網形成計画策定に合わせた路線再編を検討	事業者、沿線市	輸送人員の維持	71,209 人	98%	69,785 人	60,855 人	87 %
	中野	・運行ダイヤの見直しや路線再編の検討 ・モビリティマネジメント等の推進	・大館市地域公共交通網形成計画策定に合わせた路線再編を検討 ・沿線小学校でバスの乗り方教室を実施	事業者、沿線市	輸送人員の維持	60,113 人	98%	58,911 人	47,162 人	80 %
	能代・八竜	対象外(新規路線)				人	98%	0 人	35,747 人	### %
	真名子・能代	・運行ダイヤの見直しや路線再編の検討	・重複路線について沿線市町と再編等を検討	事業者、沿線市町	輸送人員の維持	52,821 人	98%	51,765 人	43,061 人	83 %
	小坂(2)	・観光需要の取り込み ・運行ダイヤの見直しや路線再編の検討	・地域公共交通会議において運行経路の変更を協議 ・観光施設に隣接した経路への路線変更と企画乗車券の販売(H29.10)	事業者、沿線市町	輸送人員の維持	76,963 人	98%	75,424 人	60,946 人	81 %
	花輪・大館	・割引き乗車券の利用拡大 ・モビリティマネジメント等の推進	・沿線市教育委員会等に対して小学生、中学生長期休み特別運賃のPR協力を依頼 ・沿線小学校でバスの乗り方教室を実施	事業者、沿線市	輸送人員の維持	85,980 人	98%	84,260 人	82,407 人	98 %

生産性を向上させる取組

事業者	系統	取組				基準値	目標		実績	
		項目	実施内容	実施主体	実施目標	輸送人員(R1)	係数	輸送人員(R3)	輸送人員(R3)	達成率
秋田中央交通	五城目	・割引き運賃等の利用促進 ・運行ダイヤの見直しや路線再編の検討	・1日乗り放題券の利用エリアを拡大(秋田市内限定から全沿線に:H29.4～) ・潟上市発行のバス割引券の利用方法を改善(市を越える場合は差額を払うことで併用可能に:H30.4～) ・南秋地域公共交通網形成計画策定に合わせて、大型商業施設等経由する経路への路線変更(R1.10～)	事業者、沿線市町	輸送人員の維持	263,763 人	98%	258,488 人	213,470 人	83 %
	追分	・割引き運賃等の利用促進	・1日乗り放題券の利用エリアを拡大(秋田市内限定から全沿線に:H29.4～) ・潟上市発行のバス割引券の利用方法を改善(市を越える場合は差額を払うことで併用可能に:H30.4～)	事業者	輸送人員の維持	153,353 人	98%	150,286 人	152,301 人	101 %
	太平	・割引き運賃等の利用促進 ・運行ダイヤの見直しや路線再編の検討	・1日乗り放題券の利用エリアを拡大(秋田市内限定から全沿線に:H29.4～) ・運行経路の見直しによる新規需要の掘り起こし(H30.10～)	事業者	輸送人員の維持	150,733 人	98%	147,718 人	107,541 人	73 %
トランスポート	大潟八郎潟	対象外(新規路線)				人	98%	0 人	28,334 人	### %
	八郎潟五城目	対象外(新規路線)				人	98%	0 人	37,592 人	### %

事業者	系統	取組				基準値	目標		実績	
		項目	実施内容	実施主体	実施目標	輸送人員(R1)	係数	輸送人員(R3)	輸送人員(R3)	達成率
羽後交通	本荘象潟3	・観光需要の取り込み ・運行ダイヤの見直しや路線再編の検討 ・ICT技術の導入等によるサービス向上 ・貨物事業者との協働による貨客混載の実施	・バスパック(乗車券＋食事＋施設利用)の販売開始(H29.4) ・道の駅への乗り入れ開始(H30.4) ・スマホ定期発売開始(H30.2) ・日本郵便と連携した貨客混載の実証実験及び本格運行(H30.2～)	事業者、沿線市	輸送人員の維持	37,340 人	98%	36,593 人	27,563 人	75 %
	横手大曲	・観光需要の取り込み ・ICT技術の導入等によるサービス向上 ・運行ダイヤの見直しや路線再編の検討	・バスパック(乗車券＋食事＋施設利用)の販売開始(H29.4) ・スマホ定期発売開始(H30.2) ・土曜日閑散時間帯の運行本数削減(H30.4)	事業者	輸送人員の維持	123,218 人	98%	120,754 人	91,895 人	76 %
	本荘象潟4	・観光需要の取り込み ・運行ダイヤの見直しや路線再編の検討 ・ICT技術の導入等によるサービス向上	・バスパック(乗車券＋食事＋施設利用)の販売開始(H29.4) ・道の駅への乗り入れ開始(H30.4) ・スマホ定期発売開始(H30.2)	事業者、沿線市	輸送人員の維持	38,295 人	98%	37,529 人	32,094 人	86 %
	湯沢横手2	・観光需要の取り込み ・ICT技術の導入等によるサービス向上	・バスパック(乗車券＋食事＋施設利用)の販売開始(H29.4) ・スマホ定期発売開始(H30.2)	事業者、沿線市	輸送人員の維持	36,283 人	98%	35,557 人	26,688 人	75 %
	本荘秋田2	ICT技術の導入等によるサービス向上	・バスロケーションシステムの導入 ・スマホ定期発売開始(H30.2)	事業者	輸送人員の維持	34,176 人	98%	33,492 人	32,538 人	97 %
	横手大曲2	・観光需要の取り込み ・ICT技術の導入等によるサービス向上 ・運行ダイヤの見直しや路線再編の検討	・バスパック(乗車券＋食事＋施設利用)の販売開始(H29.4) ・スマホ定期発売開始(H30.2) ・土曜日閑散時間帯の運行本数削減(H30.4)	事業者	輸送人員の維持	59,017.0 人	98%	57,837 人	45,077 人	78 %